

普及項目	増殖
漁業種類等	採貝漁業
対象魚類	アサリ
対象海域	八代海

被覆網と囲い網を併用した効率的なアサリ資源管理

県南広域本部水産課・川崎 信司

【背景・目的・目標（指標）】

八代海北部干潟漁場におけるアサリ資源は、令和2年（2020年）7月豪雨により大きなダメージを受け、その後は被覆網の設置により管理された漁場のみに漁獲が可能な状態となっている。また、被覆網により漁場を管理することで、一定のサイズや品質等を揃えながらの生産が可能となってきたが、資材費及び埋没対策・付着物除去等の管理に関わる人件費等のコストが課題である。そこで、効率的に被覆網による管理面積を拡大していくことを目的に、令和6年度（2024年度）は、比較的低コストと考えられる囲い網を併用したアサリ管理手法について検討した。

【普及の内容・特徴】

令和5年（2023年）秋に試験的に、クロダイ・ナルトビエイ等の食害防止対策として、鏡町漁協の地先干潟において、これまで被覆網で管理していた漁場を囲うように高さ3m・周囲1,400mの網を設置し、被覆網の撤去を指導した。この囲い網により、これまで被覆網で管理されていた稚貝が生育し、令和6年（2024年）の春漁期にまとまったアサリを漁獲することができたが、被覆網設置時と比較して、新規稚貝の着底が少ない状況が確認された。このため、令和6年（2024年）秋に、隣接した別の漁場に新しく周囲1,000mの囲い網を設置するとともに、稚貝着底促進のため、囲い網の内側に4m×50mの被覆網30枚を設置した。

【成果・活用】

被覆網等の食害対策を実施した漁場でなければ、アサリの漁獲ができない現状において、その管理コストの削減は喫緊の課題であるが、令和6年度（2024年度）に低コストで比較的広い面積の漁場を管理できる囲い網漁場からまとまった漁獲が出来たことは、今後の被覆網管理の低コスト化に向けて、大きな可能性を見いだすに至った。

今後は、稚貝着底促進期等のみ、囲い網と比較し管理コストがかかる被覆網を短期間併用する等の手法を検討し、効率的・効果的なアサリ管理手法の確立を図りたい。

なお、稚貝着底状況調査の結果を踏まえ、令和7年（2025年）春には、被覆網を撤去し、囲い網のみによる食害防止を主とした管理に移行する予定としている。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

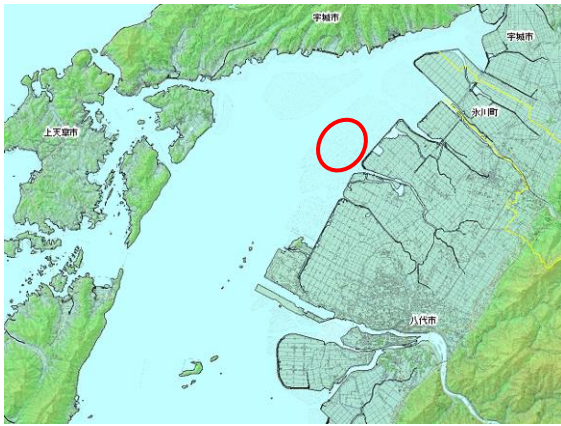


図1 八代海の八代市鏡町地先の位置図



図2 令和5年（2023年）設置の囲い網



図3 令和6年（2024年）設置の囲い網



図4 囲い網の目合（6cm）



図5 囲い網の内側に設置した被覆網



図6 稚貝調査状況